

## 花枝美恵子先生への謝辞

経済学部

佐藤 政則

花枝先生、30年間、いろいろありましたね。すべてを含めて、ありがとうございました。

ドイツ銀行東京支店で主に調査業務を担われていた花枝先生が、麗澤大学において下さったのは、平成2年（1990）4月でした。まだ国際経済学部（現：経済学部）は発足していません。たしか新設申請の準備段階だったと思います。私の着任が翌年でしたので、現職では、数年前から最古参だったのではないのでしょうか。

国際経済学部が平成4年4月に発足するまで外国語学部ドイツ語学科に属していました。どこかの居酒屋で奥野保明先生などドイツ語学科の先生方と和気あいあい、懇親されているのをお見かけしたことがあります。1号棟（現：かえで）はまだ完成していません。1大学1学部時代の麗澤大学でした。

国際経済学部要員で所帯が急拡大したことから外国語学部教授会は、モラロジー研究所研修館2階の大会議室で行われていました。事務職も含めれば100名位はいたと思います。学長の廣池幹堂理事長と田中駿平学部長の主宰のもとで皆さん一生懸命です。不謹慎かもしれませんが、面白かったですよ。ネームプレートが机に置かれ、学科ごとに分かれて着席でしたから、花枝先生もドイツ語学科のところに座っておられたのでしょうか。なかなか珍妙な教授会風景でした。

平成3年度からは、国際経済学部長に就任される小松雅雄先生を中心に外国語学部から移籍予定の先生方で「新学部運営委員会」という教授会に代わるものを設けて、教務関係等々を審議していました。花枝先生や私を含め助教授や講師の皆さんが多かったように思います。あれは実働の部隊だったのですね。完全に開設準備でした。

平成4年度に発足した国際経済学部ですが、教員が全員揃うのに3年かかりました。初年度は1年生科目の教員中心で、学年が増すごとに専門科目の先生方が着任されるからです。花枝先生をはじめ外国語学部から移籍される教員は、完成年度までの数年間、国際経済学部と外国語学部の授業を併せて担当していました。

学生もたくましく壮絶な日々が続くわけですが、花枝先生はいつも涼やかで静かなご様子に見えました。大学の雰囲気戸惑っておられたのでしょうか。思い出すのは、花枝先生の「ちょっといいですかあ」で始まる立話です。国際経営学科（現：経営学科）所属教員の研究室は、B棟（現：BEE棟）2階に集まっており、東側の2階階段踊り場が、花枝先生の場所でした。よく長谷川泰隆先生と話されていました。私が1号棟で一仕事して戻っても、まだ「密談」中（笑）なのには、びっくりでした。長谷川先生はお優しいですよ。

この10年近く、会議等でのご提言や研究指導に関するご発言は極めて適切だと思っておりました。なかでも、この3月に修士課程を修了する韓蓬召君への研究指導は、見ていても熱意溢れるものでした。韓君もよく応えましたよ。連日、朝から晩まで大学院研究室で頑張っていました。いい学生に出会われ、本当に良かったと思います。

30年間を振り返れば、苦しかったこともあったと思います。また楽しかった、嬉しかったことも多かったと思います。それらをすべて含めて、先生をお送りします。

ありがとうございました。今後ともお健やかで、麗澤大学と学部をお見守り下さい。



花枝 美恵子 特任教授 略歴

生年月日 1950(昭和25)年2月8日生 (本籍地：東京都)

#### 学歴

1968(昭和43)年3月 東京都立南多摩高等学校卒業  
 1972(昭和47)年3月 上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業  
 1978(昭和53)年2月 ケルン大学経済社会学部卒業  
 1982(昭和57)年2月 ケルン大学経済社会学部経済学博士課程修了

#### 学位

文学士 (上智大学) 1972(昭和47)年3月  
 Dipl. Volkswirt (ドイツ ケルン大学) 1978(昭和53)年2月  
 Doktor der Wirtschafts-und Sozialwissenschaften (DR.RER.POL.)  
 (ドイツ ケルン大学) 1982(昭和57)年2月

#### 職歴

1972(昭和47)年4月～1973(昭和48)年3月  
 伊藤特許事務所勤務 (ドイツ語・英語担当)  
 1973(昭和48)年7月～1978(昭和53)年7月  
 ケルン大学在学中にドイチェ・ヴェレ(ドイツ海外放送)日本語放送フリー  
 ランス・アナウンサー  
 1982(昭和57)年10月～1983(昭和58)年9月  
 株式会社テクノバとミシガン大学との日米自動車問題共同研究の調査・  
 研究に携わる Project Researcher, Technova, Inc.  
 1983(昭和58)年7月～1984(昭和59)年1月  
 BASF Japan 勤務 (社長室、経営企画)

- 1984(昭和59)年4月～1986(昭和61)年3月  
国際商科大学〈現東京国際大学〉商学部 非常勤講師(ドイツ語、外書  
講読(英語)、チュートリアル)
- 1984(昭和59)年7月～1990(平成2)年3月  
ドイツ銀行東京支店勤務(調査・情報課副長、関連コンサルタント会社  
株式会社ファウベル社長補佐[出向:昭和61年9月～昭和62年2月]、支  
店長室長、支店長室長兼経済調査部次長、融資審査部次長を歴任)
- 1990(平成2)年4月～1992(平成4)年3月  
麗澤大学外国語学部助教授(経済ドイツ語、ドイツ語商業通信文)
- 1992(平成4)年4月～1996(平成8)年3月  
麗澤大学国際経済学部助教授(経済ドイツ語、ドイツ語商業通信文、総  
合科学/直接投資論、多国籍企業論)
- 1993(平成5)年4月～1998(平成10)年3月  
上智大学外国語学部 非常勤講師(EC研究1・2、EU研究1・2)
- 1996(平成8)年4月～2008(平成20)年3月  
麗澤大学国際経済学部教授(国際経営論、多国籍企業論、EUヨーロッパ  
研究)
- 2000(平成12)年4月～2008(平成20)年3月  
兼麗澤大学大学院国際経済研究科教授(国際経営研究)
- 2008(平成20)年4月～2015(平成27)年3月  
麗澤大学経済学部(経営学科)兼大学院経済研究科教授(国際経営論、  
国際経営研究、EUヨーロッパ研究)
- 2015(平成27)年4月～2020(令和2)年3月  
麗澤大学経済学部(経営学科)兼大学院経済研究科特任教授(国際経営論、  
EU経済社会論、国際経営研究、Globalization and International Business、  
Japanese Trade and Foreign Direct Investment)

#### 受賞等

- 2013(平成25)12月  
千葉県私学教育功労者表彰(公益財団千葉県私学教育振興財団より)

#### 所属学会

- 日本経営学会  
日本国際経済学会  
経済社会学会  
日本EU学会  
ドイツ経営学研究会

#### その他活動

- 1972(昭和47)年1月～1972(昭和47)年2月  
札幌オリンピック冬季大会 真駒内オリンピック村面会所 通訳(ドイ  
ツ語)
- 1983(昭和59)年  
株式会社テクノバとCenter for Japanese Studies, The University of Michigan  
共催の自動車問題調査研究委員会第4回日米合同政策委員会(東京にて  
開催)に研究委員として参加
- 1990(平成2)年11月30日～12月2日  
株式会社テクノバとCenter for Japanese Studies, The University of Michigan  
共催の第7回国際自動車産業フォーラム会議並びにリサーチ・ミーティン  
グ(アリゾナ州フェニックスにて開催)にAcademic Observerとして参加

- 1991(平成3)年10月25日～10月27日  
株式会社テクノバとCenter for Japanese Studies, The University of Michigan  
共催の第8回国際自動車産業フォーラム会議並びにリサーチ・ミーティ  
ング(東京にて開催)にリサーチャーとして参加
- 1990(平成2)年9月～1991(平成3)年3月  
(財)機械振興協会経済研究所企画の調査研究プロジェクト『日本機械産  
業のグローバリゼーションの現状と課題I』に委員として参加
- 1991(平成3)年9月～1992(平成4)年3月  
(財)機械振興協会経済研究所企画の調査研究プロジェクト『日本機械産  
業のグローバリゼーションの現状と課題II』に委員として参加
- 1995(平成7)年6月28日  
上智大学学内共同研究<ドイツの20世紀>第13回研究会にて「欧州統合  
とドイツの経済的役割—可能性と限界—」と題し講演を行う(場所:ソフィ  
アンス・クラブ 第3会議室)
- 2001年4月24日  
ドイツベルテスマン財団主催の日独対話フォーラム「経済およびビジ  
ネス展開の中でのグローバリゼーションとカルチュラル・アイデンティ  
ティー—日独対話フォーラム—」(東京にて開催)に日独100人の招待者  
の1人として招待され参加
- 2005(平成2)年9月～10月  
明治大学にて開催の日独公開シンポジウム『マネジメント—日本とドイ  
ツ—』に運営委員会委員として参加(東京会場:明治大学、関西会場:関  
西学院大学にて開催)主催:日本経営学会、ドイツ経営学研究会、Verband  
der Hochschullehrer der Betriebswirtschaft e.V.(ドイツ経営学会)、在日  
ドイツ商工会議所、ドイツ・日本研究所 後援:ドイツ大使館、ドイツ  
文化センター、ドイツ学術後援会、NRW Japan K.K., 明治大学、明治  
大学リパティ・アカデミー、関西学院大学、EUインスティテュート関西、  
早稲田大学、慶応義塾大学、名古屋市立大学、神戸大学大学院経営学研  
究科、同志社大学、立命館大学、関西大学、ドイツ学会、経営学史学会、  
経営戦略学会

#### [著書]

- Der Handelskonflikt zwischen Japan und den EG-Staaten –Das Beispiel der  
Automobilindustrie–* München/Köln/London : Weltforum Verlag 1982  
単著(ケルン大学博士号取得論文)
- “Structural Characteristics of the Japanese Automotive Supplier Industry”, 32pp.  
June 1983 Cole, R. E. and Yakushiji, T. (eds.) (1984), *The American and  
Japanese Auto Industries in Transition Report of the Joint U.S.-Japan  
Automotive Study*, Appendix A Working Paper Series 13, p.221所収  
Ann Arbor:Center for Japanese Studies Publications, The University of  
Michigan, 共著 Kodama, Fumio, Yakushiji, Taizo 共著
- 「欧米の多国籍企業」吉原英樹(編)『国際経営論への招待』有斐閣、第14章、  
pp.252-265, 2002年 単著

#### [論文]

- 「日・EC自動車摩擦とEC自動車産業の構造—西ドイツ自動車産業の対応をめ  
ぐって—」『世界経済評論』Vol.26, No.11所収 pp.66-72 1982年11月  
単著
- 「欧州統合とドイツ多国籍企業のM&Aならびに戦略的提携—タイムラー・ベン  
ツ社とドイツ銀行の経営戦略に関する考察を中心として—」『ビジネス・

- レビュー』 Vol.38, No. 2 所収 pp.151-171 一橋大学産業経営研究所編集  
千倉書房 1990年11月 単著
- 「90年代の戦略的提携—日本企業における展望と課題」(財)機械振興協会経済  
研究所編調査研究報告書『日本機械産業のグローバル化の現状と  
課題』報告書No.H2-1 所収 pp.78-95 1991年5月 単著
- 「日本の直接投資における内外不均衡の見方」『麗澤経済研究』第6巻第1号所  
収 pp.33-58 麗澤大学経済学会 1998年3月 単著
- 「企業経営の国際化と株主対応のあり方—日独多国籍企業における変革の必要  
性の検証—」『麗澤経済研究』第7巻第1号所収 pp.45-61 麗澤大学経  
済学会 1999年3月 単著
- 「多国籍企業の事業再編戦略と経済制度の変化の影響—旧ヘキスト社を例にし  
て—」『麗澤経済研究』第14巻第1号所収 pp.103-115 麗澤大学経済学  
会 2006年3月 単著

#### [研究ノート]

- 「資源価格の高騰と鉄鋼メーカーの資源調達と垂直統合戦略—必要性の取引コ  
スト理論からの考察と垂直統合戦略の課題—」『麗澤経済研究』第20巻第  
1号所収 pp.45-61 麗澤大学経済学会 2012年3月 単著

#### [翻訳]

- 「企業の資金調達」ウイリアムK.ファロン編/宮川公男監修、日本能率協会最新  
経営ハンドブック翻訳委員会訳『AMA版最新経営ハンドブック』日本能率  
協会、第6章、pp.97-103、1990年(原書名: Joseph M. Quigley and Harry  
A. Lund, 'Financing Corporate Requirements', in Fallon, William K. (ed.), *AMA  
management handbook* New York: AMACOM, 1983)
- 「ビジネス・エシックスとは何か」(財)モラロジー研究所主催東京国際会議『グ  
ローバル時代のビジネス・エシックス』提出論文、1991年9月10日開催セッ  
ション1 報告1、(原書名: Enderle, G. 'Was ist Wirtschaftsethik' pp.12  
1991)

#### [その他(講演要旨)・エッセイ]

- 「欧州統合とドイツの経済的役割—可能性と限界—」1994年度~1996年度上智  
大学学内共同研究『ドイツの20世紀』研究報告書所収 pp.31-32 上智大  
学ドイツ語圏文化研究所 六甲出版 1997年3月 単著
- 「異文化体験による自己発見を」『麗澤教育』No.3 所収 pp.16-19『麗澤教育』  
編集委員会編集 麗澤大学 1997年4月 単著